

2026年度 埼玉医科大学短期大学
看護学科 総合型選抜Ⅱ期
小 論 文

問題用紙 2枚

答案用紙 1枚

無断転載・複製を禁ず

次の文章を読んで、後の問い（問１、問２）に答えなさい。

シェイクスピアは、『お気に召すまま』の中で、人生を7つのステージに分けました。すなわち幼児期と学童期と恋人を持つ時代、そして兵隊の時代の壮年期、そして裁判官など重要な役職につく中年の時期、そして第6が、シェイクスピアの言葉で表現しますと、「ひよろひよろの、間抜け爺^{じい}」、そして第7は幕切れ前の第2のみどり児の時代。垂れ流しになったり、ボケてしまったりする寂しい時代、と分けています。

シェイクスピアは、老けることが嫌いだったようです。50歳前後に早くも引退をして、それからはあまり作品を書かなかったようです。『お気に召すまま』の文章を見ると、赤ん坊のころ、あるいは恋人を持つ時代のころは非常に景気がいいのですが、いよいよ齢^{とし}をとりますと、いま述べた言葉で老年期を哀れに表現しています。

老年期というのは、いつからかというのはめいめいの判断におまかせしますが、いまの世界の老年医学の常識では、①だいたい65歳以上を、いちおう老年期と決めようということになっています。

シェイクスピアの時代というのは、今日みるように、60、70歳で太っている人はあまりいなかったようです。老人はみんなやせていたようです。原文はこういう言葉で表現されています。

ひよろひよろの、スリッパはいた間抜け爺^{じい}、
鼻には眼鏡、腰には財布、
よくぞ蔵^{くら}っておったのは、若い時分の長靴下、
ちぢんだ脛^{すね}には、大きすぎ、雄々しい昔の大声も、
またもや子供の甲^{かん}声^{こゑ}で、笛ふくように
びいびい、びゅうびゅう鳴るばかり。さて大詰め的一场、
この奇^くしき波瀾^{はらん}の一代記の大団円と申すのは、
第2の嬰児^{みどりこ}、それからまったくの暗転、
歯なく、眼なく、味覚なく、何もない。
(阿部知二訳、岩波文庫)

シェイクスピアは、老いのみじめさをこのように書いて、自分はこうはなりたくないと思ったのかもしれませんが。

ところが、今日、日本の女子の平均寿命は84.62歳に達しました。男性は残念ながら7歳ほど短く77.64歳です。この男女の差は世界に共通です。なぜ男子が女子に比べると早く死んでいくのかというと、これは遺伝的な体質、女性ホルモンがきわめて少ないということが老化を早めていると考えられますが、それ以外にどこの国においても、男性は若いときおよび中年以降の生活のスタイルがあまりにも健康から逸脱した不摂生な生活をしていること、たとえば長年の仕事中心、宴会つづきの生活スタイルが男性の平均寿命を短くしている原因ではないかとも思います。

しかし、いまや女性が社会に出て男性と同じように仕事をする時代になりました。最近では日本でも女性の間に心筋梗塞がぼつぼつふえてきました。女性にもいままでなかった美食による病気である痛風症がだんだんと現われてきました。このように女性も男性と同じ仕事をするようになってくると、②女性の平均寿命もいまのようにはいかないで下がる可能性がでてくるかもしれません。

(日野原重明著『命をみつめて』岩波書店より。一部改変)

無断転載・複製を禁ず

問1 下線部①「だいたい65歳以上を、いちおう老年期と決めようということになっています。」とあるが、現代において、老年期は何歳ぐらいからが適当だとあなたは考えるか。その年齢とその理由を200字以内で述べよ。

問2 下線部②「女性の平均寿命もいまようにはいかないで下がる可能性がでてくるかもしれません。」とある（問題文は筆者が1988年に行った講演を文章化している。）が、現代の女性の平均寿命はおよそ何歳ぐらいになっていると思うか。また、その平均寿命はどうしてそのように変化したと考えられるのか、あなたの考えを200字以内で述べよ。